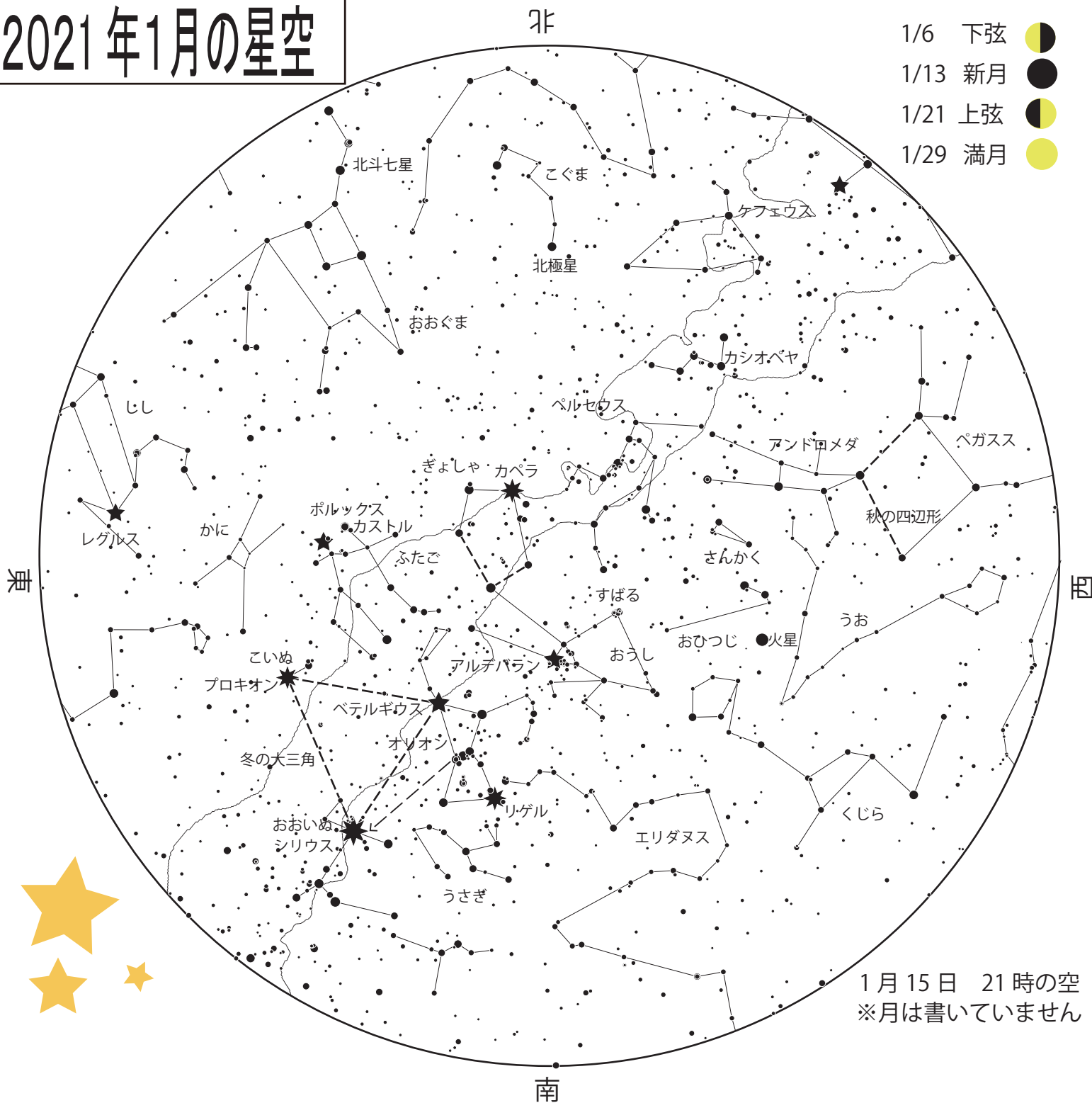


姫路で見る 2021年1月の星空

図の中心が頭の真上(天頂)、まわりの円が地平線です。
この星図は見ている方向の方位を下にしてください。

- 1/6 下弦 
- 1/13 新月 
- 1/21 上弦 
- 1/29 満月 



1月15日 21時の空
※月は書いていません



冬の星が見やすくなりました。はじめに結んだリボンの形をしたオリオン座を探しましょう。オリオン座には2つの1等星が輝きます。オレンジ色の方はベテルギウスで、オリオンの右肩に輝いている星です。白い方はリゲルで、オリオンの左足に輝いている星です。リボンの結び目の三つ星を東の方にのぼすと、全天でいちばん明るい1等星、おおいて座のシリウスが見つかります。シリウスの左側にはこいて座のプロキオンも目立ちます。シリウス、プロキオン、ベテルギウスを結んでできるのが、冬の夜空の目印、冬の大三角です。一方、南の空高くにはおうし座が見つかります。おうしの肩にある星の集まりは「すばる」で、おうしの目にあるオレンジ色の星は1等星のアルデバランです。また、おうしの顔、V字型に並んでいる星たちはヒアデス星団という星の集まりです。そして、おうし座の北側の五角形ぎょしゃ座にはカペラが、オリオン座の左側にはふたご座のカストル(白)とポルックス(黄色)が仲良く並びます。

冬の星が目立ちますが、西の空には秋の名残の星たちや火星もまだ見ることができます。また、反対の東の空には春の星座のしし座が見えはじめています。しし座の頭の部分は?を裏返したように見え、?の点の部分にあたるのが1等星のレグルスです。1年でいちばん寒い時期ですが、このレグルスや北斗七星を眺めると、春の訪れが近いことを感じることもできるかもしれません。